

「主な取組」検証票

施策展開	2-(4)-ア	安全・安心に暮らせる地域づくり	施策	③ 交通安全対策の推進
			施策の小項目名	○飲酒運転根絶に向けた社会づくり
主な取組	交通安全対策・飲酒運転根絶対策事業			
対応する主な課題	④交通死亡事故に占める飲酒絡みの死亡事故の割合が全国ワースト1位(28年)、人身事故に占める飲酒絡みの事故の割合が全国ワースト1位(28年現在、27年連続)であるなど極めて深刻な状況にある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
道路における交通の安全と円滑を確保するため、「沖縄県飲酒運転根絶条例」に基づく飲酒運転根絶に向けた県民意識の高揚、自治体・事業所・飲食店等との連携のほか、参加・体験型の交通安全教育並びに広報啓発活動等の各種飲酒運転根絶対策を推進する。		H29	H30	R元	R2	R3
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	警察本部交通部交通企画課 【098-862-0110】					
		飲酒運転取締の強化				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		飲酒運転根絶対策事業					R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度：新型コロナウイルス感染症対策を講じた活動を推進し、前年より講話等の活動回数が増加した。	
県単等	その他	16,095	11,629	8,222	6,763	2,617	701	県単等	OR4年度：飲酒運転取締りを継続強化するとともに、感染症対策等を踏まえた各種活動を推進する。	

  

活動指標名	交通安全教室の開催(飲酒運転根絶関係)				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	1,444回	1,259回	1,212回	288回	355回	—	100.0%	2,617	順調	新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み、非接触型の交通安全教室やSNS等による広報啓発活動を推進した。 感染症対策を講じた飲酒運転根絶アドバイザーによる講話等を実施し前年よりも活動回数は増加した。  進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果  昨年は、感染症対策を講じた交通安全教室の開催やSNS等を活用した広報啓発活動等を推進し、継続して飲酒運転根絶対策を実施したことにより、過去5年間で飲酒絡みの事故件数は3割減少したことから、「順調」に推移している。
活動指標名	飲酒運転根絶アドバイザーによる講話				R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	72回	67回	45回	0回	12回	—				
活動指標名	—				R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				

(2) これまでの改善案の反映状況

令和3年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲酒運転の危険性や飲酒運転がもたらす代償の重さを浸透させ、県民一人一人が自らの問題として考えさせる飲酒運転根絶教育を今後も継続して推進するとともに、SNS等の新たな広報媒体を効果的に活用するなど、飲酒運転を「しないさせない 許さない」社会環境作りを推進して交通事故防止を図る。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響下においても、必要な感染対策を講じて交通安全教室・各種講話等の実施を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS等を活用した広報啓発活動等を積極的に活用し、飲酒運転根絶への気運を高め交通事故防止を図った。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策として、非接触型の講話等による交通安全教育活動を推進した。</li> </ul>

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因	○外部環境の変化
<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲酒運転根絶に向けた参加・体験型の交通安全教育、広報啓発活動の実施について、時代に沿った非接触型の方法を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、例年に比べ、講話等の要請依頼は依然として減少しているが、非接触型の講話方法等を取り入れ、積極的に講話開催を希望する団体が増えた。</li> <li>・飲酒運転の検挙件数は、令和3年中1,189件(対前年度比-240)と減少したが、依然として全国上位にあり、県民の法令遵守・規範の向上が問題となっている。</li> </ul>

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・非接触型の交通安全教育を推進するにあたって、ツイッター、ライン、YouTube等で飲酒運転根絶CM、交通安全啓発動画を配信するなど、SNSを活用して効果的な情報発信を推進しているが、他の広報媒体をも含めさらなる情報発信機会の拡充を図る。</li> </ul>
---

4 取組の改善案 (Action)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響下においても適切に交通安全教室が実施できるよう関係機関・団体と連携し、時代に沿った講話等の開催により、更なる交通事故防止を図る。</li> <li>・SNS等の新たな広報媒体を効果的に活用し、飲酒運転根絶に向けた気運を高め、飲酒運転を「しないさせない 許さない」社会環境作りを推進する。</li> </ul>
---